

令和7年6月20日

日比谷カレッジ開催ご案内

【特別対談】

～「戦後80年」に平和を考える～

戦争の記憶を消してはいけない 最終章

千代田区立日比谷図書文化館では令和5年（2023年）から毎年、日比谷カレッジ「戦争の記憶を消してはいけない」を実施しておりました。戦後80年となる今年は、その締めくくりとして特別対談という形で開催いたします。

小説家で詩人でもある池澤夏樹氏と、岩波書店元代表取締役社長の山口昭男氏が「戦争と平和」について語り合います。

【特別対談】～「戦後80年」に平和を考える～

戦争の記憶を消してはいけない 最終章 概要

- 開催日：令和7年（2025年）8月6日（水曜日）
- 会場：千代田区立日比谷図書文化館 地下1階 コンベンションホール（大ホール）
- 時間：午後7時～午後8時30分（開場：午後6時30分）
- 定員：200名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- 参加費：一般 2,000円、学生 1,000円（学生の方は当日学生証をお持ち下さい）
- 主催：千代田区立日比谷図書文化館

●講師

池澤夏樹 いけざわなつき（小説家・詩人）

1945年北海道帯広生まれ。ギリシャ、沖縄、フランス、札幌などさまざまな土地で生活し、2022年からは長野県安曇野に居住している。88年「スティル・ライフ」で芥川賞、93年『母なる自然のおっぱい』で読売文学賞、93年『マシアス・ギリの失脚』で谷崎潤一郎賞、94年『楽しい終末』で伊藤整文学賞、2000年『花を運ぶ妹』で毎日出版文化賞、01年『すばらしい新世界』で芸術選奨文部科学大臣賞、03年『イラクの小さな橋を渡って』『憲法なんて知らないよ』『言葉の流星群』で宮沢賢治賞、04年『静かな大地』で親鸞賞、05年『パレオマニア』で桑原武夫学芸賞、10年『世界文学全集』の編纂で、20年『日本文学全集』の編纂で毎日出版文化賞。その他小説、詩、随筆、翻訳など著書多数。

山口昭男 やまぐちあきお（岩波書店元代表取締役社長）

編集者・評論家。日本ペンクラブ会員、日本ジャーナリスト会議代表委員、井上ひさし研究会会長、ふくい風花随筆文学賞実行委員会理事、檉の会理事。1949年東京生まれ。73年東京都立大学経済学部卒業。同年岩波書店に入社。88年～96年『世界』編集長。2003年～13年代表取締役社長。現在、中央経済社ホールディングス常勤監査役。著書に『辻井喬＝ 堤清二文化を創造する文学者』（共著、平凡社、2016年）、『メディア学の現在新訂第2版』（共著、世界思想社、2015年）など多数。

これまで2回、「戦争の記憶を消してはいけない」と題して、30年以上にわたって交流があった6人の作家（吉村昭・井出孫六・井上ひさし・辻井喬・加藤周一・水上勉）の文学と戦争体験について語ってきた。この演題は井出孫六氏がよく口にしていた言葉である。

今回はその締めくくりとして、小説、詩、評論、随筆、翻訳と幅広く活躍されている作家の池澤夏樹氏を招いて、「戦争と平和」について語り合う。氏の人生はまさに戦後80年と重なっており、昨年8月には戦争の悲しみと愚かさを伝える絵本『対馬丸とポーフィン』を黒田征太郎氏との共著で上梓している。（山口昭男・文）

<本対談に関するお問合せ>

千代田区立日比谷図書文化館 施設事務室 広報・営業部門 南辻

メール：minamitsuji-kaori@shopro.co.jp

TEL：03-3502-3342（直通）